
あかずのこい

884

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あかずのこい

【Nコード】

N0238Q

【作者名】

884

【あらすじ】

ともだちの友達に、目の見えない者がおりました。さくらの頃に会いました。彼は病室で寝ていました。なぜ病床に封印されているのか不思議なほどたくましい人でした。

友の、そのまた知り合いに、めくらの者がおりまして、わたくしが、彼に初めて相對したのは、一昨年の春のことであつたと思ひます。ふるい共同病室の、窓側のベッドのひとつに、彼は臥して居りました。床のタイルはくすんで、スリッパは垢じみてぺたぺたし、鉄パイプのベッドの塗装は禿げて、白い布団の端々は薬品で黄ばんでいました。ツンとすっぱく不快なおいがただよつており、ほかの五ツのベッドの病人は、起きているのも臥しているのも、まるで布団と同化してしまつたかのようにしずかでした。わたくしの脳裏に退廃、ということばが落ち着きました。

わたくしの隣には友がおり、仲介してくれましたが、わたくしは彼に最初のあいさつをして、型どおりのことばを二ツ三ツ交わしただけで、手一杯になつてしまいました。彼の顔面は、双眸を覆つて、包帯に横断されておりましたが、そのかわりに、立派な眉や、口元が、ころころとよく動き、大きな声でよく笑い、手のひらを上手に操つて、ものを喋りました。彼の肢体が本来、使い古されたベッドに封印されるものではないのだということ、そのはつらつとした声で知りました。

会話に入れないわたくしが、まるで空気のようにたたずむようになつてから、数刻ののちでしょうか。

病室のそとでは、もうさくらの頃でした。窓は放たれており、時折薫風がはいりましたが、窓から二列めのベッドに達するまでに、退廃的な在来の空氣にやられてしまつたのでした。その窓から、ピンクのはなびらが、いちまい、ちらちらと、舞い込んできました。

あら、とわたくしは思つて、その軌跡をじつと見つめておりますと、めくらの彼が、ひよいと白い腕を伸ばして、空中をつかみました。そして、わたくしの方へそのこぶしをぐい、と尽きだして、指を開きました。するとそこに、先ほど、空中を舞つていた花びらが

ありました。

まるで手品を披露されたようで、わたくしは、あら、とか、まあ、とか、はあ、とか、気の利かないことを切れ切れに漏らす以外ありませんでした。彼は、わたくしを驚かせたとみて、満足げにわらっておりましたが、わたくしは、そのとき、おどろいたのでは、ありませんでした。

彼の、寝間着の袖からゆっと伸びた白い腕。浮き立った青い血管。筋張った手首。しかくい拳。その中からあらわれたピンク色の花弁に、まるで、そう、疲労のような、吐き気のようなものを感じたのです。身体のなかの、たったひとつの、大事な吐息がこぼれて、酸欠になったようでした。わたくしはとまどっていたのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0238q/>

あかずのこい

2011年1月13日07時42分発行